

令和7年度

**岩手県普及指導活動に係る
外部有識者との意見交換会
実施報告書**

岩手県農林水産部農業普及技術課

目 次

	頁
第 1 実施内容	1
第 2 意見交換実施報告書	
1 農業普及技術課 農業革新支援担当	3
2 盛岡農業改良普及センター	6
3 八幡平農業改良普及センター	8
4 中部農業改良普及センター	9
5 奥州農業改良普及センター	11
6 一関農業改良普及センター	13
7 大船渡農業改良普及センター	15
8 宮古農業改良普及センター	16
9 久慈農業改良普及センター	17
10 二戸農業改良普及センター	18
添付 普及指導計画の策定及び普及指導活動の実施と評価に関する要領	19

第1 実施内容

1 目的

普及指導計画の策定及び普及指導活動の実施と評価に関する要領（以下「要領」という。）第4の規定に基づき、当該年度の普及指導計画について幅広い視点から客観的な検討を行うため、令和7年度岩手県普及指導活動に係る外部有識者との意見交換会を実施する。

2 実施主体

農業普及技術課

3 外部有識者

地域の先進的な農業者や農業関係団体、学識経験者、流通関係者、民間企業等の5名を外部有識者とした。

区分	所属等	氏名
先進的な農業者	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	照井 勝也
農業関係団体	岩手県農業協同組合中央会 営農農政部 部長	山崎 勉
学識経験者	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	宮路 広武
流通関係者	丸モ盛岡中央青果株式会社 取締役部長	川村 千伸
民間企業等	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	梁川 真一

4 日程及び会場

(1) 日程

令和8年2月6日（金）10:00～16:20

(2) 会場

キオクシア アイーナ（いわて県民情報交流センター） 研修室 812（ウェブ会議併用）

5 対象課題

(1) 県重点プロジェクト計画

課題名	公所名
環境制御技術等を活用した施設果菜類の生産拡大	岩手県 農林水産部 農業普及技術課 農業革新支援担当

(2) 地域重点課題普及指導計画

課題名	公所名
野菜産地を担う経営体の育成と産地の持続的発展	盛岡農業改良普及センター
産地を担う経営体育成による野菜産地力の向上	八幡平農業改良普及センター
野菜産地の生産構造の強化	中部農業改良普及センター
次代を担う野菜産地の育成強化	奥州農業改良普及センター
畜産経営体の収益確保	一関農業改良普及センター
施設野菜モデル経営体の育成	大船渡農業改良普及センター
野菜生産体制の強化	宮古農業改良普及センター
ほうれんそうを核とした園芸産地の育成	久慈農業改良普及センター
革新技術等の普及拡大による野菜の生産性向上	二戸農業改良普及センター

6 意見交換の視点

項目	意見交換の視点
課題背景 選定理由	<ul style="list-style-type: none"> ・現状把握がしっかり行われているか。 ・支援対象をしっかりと捉えているか。 ・課題選定は適切か。その場限りの対処法に偏っていないか。 ・根拠を踏まえて課題設定しているか。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な目標となっているか。 ・過小でもなく、過大でもない、根拠ある適正な目標となっているか。 ・関係機関等との共有が図られているか。
活動体制 活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・活動方法と活動時期は適切か。 ・所内での役割分担と連携体制は明確か。 ・県重点プロジェクト計画（地域重点課題普及指導計画）との連携が図られているか。 ・試験研究機関等の関係機関と連携が図られているか。 ・支援対象等とのコミュニケーションが図られているか。
活動実績と成果 地域や対象の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・実績と成果が見出されているか。 ・実績と成果につながった要因を分析しているか。 ・地域や対象の変化をしっかりと捉えているか。
残された課題 今後の対応方向	<ul style="list-style-type: none"> ・残された課題をしっかりと捉えているか。 ・今後の対応策をしっかりと設定しているか。
参考意見（プレゼンテーション）	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した資料は見やすく、発表は明瞭で分かりやすいか。

第2 意見交換実施報告書

1 農業普及技術課 農業革新支援担当

(1) 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題名（中課題名）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和8年2月6日 10時00分～16時20分	ア 環境制御技術等を活用した施設果菜類の生産拡大	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
実施場所		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 営農農政部 部長	農業関係団体
キオクシア アイーナ (いわて県民情報交流センター) 研修室 812 ウェブ会議		宮路 広武	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者
		川村 千伸	丸モ盛岡中央青果株式会社 取締役部長	流通関係者
		梁川 真一	一関まちづくり株式会社 代表取締役(新鮮館おおまち 店長)	民間企業等

(2) 課題別の意見

対象課題名	意見・助言
ア 環境制御技術等を活用した施設果菜類の生産拡大	<p>【照井勝也】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題背景、選定理由、活動体制は良い。 各支援対象経営体の単収調査まで実施した方が良かったのではないかと。 到達目標について、経営体によってバラつきがあるように感じた。 <p>【山崎勉】</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象経営体の数の考え方が少し複雑だが、目標をしっかりと達成できている。 データ活用方法の普及拡大には、マニュアルが必要と感じる。検討いただきたい。 <p>【宮路広武】</p> <ul style="list-style-type: none"> 伴走型支援については、各モデル経営体の課題を抽出し、必要な指導を行い、増収等の改善目標を達成している点は評価できる。 環境制御技術等の普及拡大に際し、セミナーの開催や導入の手引きの作成などによる生産者への情報発信が行われている点も評価できる。 環境制御技術に関するデータの活用(ノウハウ等)は、地域間や経営体間でも共有できるものと考えられるので、農業革新支援担当を中心に、積極的な連携を行い、知見の共有等が図られることを期待したい。 <p>【川村千伸】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境制御技術の導入により、単収向上につながっている生産者が着実に増加していることは評価に値する。ひきつづき導入推進をお願いしたい。 実績値については目標値が単収向上や収益向上などの経営体により異なるので、努めて共通にしたほうが良い。収益だとその年の相場・価格の影響が想定されてしまう。 環境制御技術の導入推進に関しては、県としても人的支援のほか JA と一体となった補助事業も必要となる。また、農業協同組合の生産部会を巻き込むことも重要である。 きゅうりは販売面からみると夏秋きゅうりの作付け減の歯止め対策が必要だと感じた。

対象課題名	意見・助言
	<p>【梁川真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数値、工程、体制が整理され、説明責任を果たしている点、それぞれ関係機関を巻き込んでいる点、経営体の考え方に合わせて目標の設定をしている点が評価できる。 ・ 伴走型支援で、目標に到達していない生産者の方についても継続的にフォローすると聞き、大変心強く感じた。ぜひ、多くの方に成功体験を積み重ねていただき、その成果を横展開していくことで、地域全体の力の向上につながることを期待したい。

(3) 普及指導活動の体制等への意見

普及指導活動の体制等	意見・助言
ア 組織体制	<p>【梁川真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題設定から実行まで丁寧に進められていると感じた。成果が出た地区の事例を横断的に共有し、県全体で横展開できる仕組みがより強化されれば、地域間の差を縮めることにもつながるのではないかと思う。点で終わらず、面に広げていく組織体制づくりを期待したい。
イ 人員の動向	<p>【梁川真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生産者の高齢化や担い手不足が進む中で、普及員の役割はこれまで以上に重要になっていると感じた。 ・ 人員に限られる中では、すべてを支援するのではなく、重点化や優先順位の明確化がより必要になると思われた。 ・ 若手普及員が現場経験を積みながら育つ環境づくりと、ベテランの知見をしっかりと継承していく仕組みも大切だと感じた。
ウ 普及員の資質向上の取組	<p>【山崎勉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の大学農学部学生のどれくらいの割合が、普及員を目指しているのか等から把握していく必要があるのではないか。農業普及員の仕事に興味を持つ学生が入庁しなければ、その後の効果的なスキル向上も限度があると感じる。 ・ JAの営農指導員の資質向上も苦勞しているので、農業普及員と営農指導員と一緒にスキル向上できる方法があれば良い。 <p>【川村千伸】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時代錯誤ではあるが、普及指導活動は、最後は気合と根性、そして情熱が必要だと考える。 <p>【梁川真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術指導に加えて、データ活用や経営視点を取り入れた支援が増えている点は非常に前向きだと感じた。生産者の自立化を進めるためには、単に答えを示すのではなく、考え方を共有し、伴走する力がより重要になると思う。 ・ 農業分野に限らず、異業種の経営や品質管理の考え方に触れる機会を持つことも、普及員自身の視野を広げ、支援の幅を広げることにつながるのではないか。
エ その他	<p>【照井勝也】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これからも生産者は減少していくので適地適作を進め、地域毎に強い経営体を作っていく、労働生産性を上げることが重要である。 <p>【宮路広武】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境制御技術の導入による施設果菜類の生産拡大に関する報告が多かったが、環境制御技術やモニタリングデータの活用方法、活用の際の課題については、地域間で共有できる情報だと考えられるので、課題解決過程の振り返りなどを行い、地域間での情報共有がより一層図られることを期待したい。 ・ 多くの報告で環境制御技術の活用以外の課題解決(病虫害の発生など)が必要な点も示されたので、この点についても情報の共有や改善が実行されることを期待したい。

普及指導活動の体制等	意見・助言
	<p>【梁川真一】</p> <p>実証と検証が丁寧に行われており、PDCAの「確認」「改善」まで意識した取組が進んでいると思った。</p> <p>また、伴走型支援を通じて、生産者が自ら考え、判断し、行動できる状態をつくるのが、持続可能な産地形成の鍵になると感じた。</p>

2 盛岡農業改良普及センター

(1) 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題名（中課題名）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和8年2月6日 10時00分～16時20分	ア 野菜産地を担う経営体の育成と産地の持続的発展	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
実施場所		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 営農農政部 部長	農業関係団体
キオクシア アイーナ (いわて県民情報交流センター) 研修室 812 ウェブ会議		宮路 広武	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者
		川村 千伸	丸モ盛岡中央青果株式会社 取締役部長	流通関係者
		梁川 真一	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	民間企業等

(2) 課題別の意見

対象課題名	意見・助言
ア 野菜産地を担う経営体の育成と産地の持続的発展	<p>【照井勝也】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題背景、選定理由は良かった。また、今後の課題もとらえている点は評価できる。 ・ 活動内容も充実していると感じた。 ・ 栽培から販売まで一貫して支援しているのは良い。 ・ 当日説明資料も見やすくわかりやすかった。 ・ A経営体のR5、6年の単収の大幅減少について何らかの対策がとれなかったのか気になった。 <p>【山崎勉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実需者との関係性構築につなげていることは評価できる。 ・ R8の複合環境制御技術導入法人の単収目標達成のための対策をしっかりと考え、改善実証することがデータ活用の普及に大きく影響すると感じる。 <p>【宮路広武】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境制御の主目的ではないが、環境制御効果を阻害するコナジラミ対策を実施し、被害の抑制、目標収量を達成したことは評価できる。 ・ 新規導入支援での、簡易測定器の貸し出しなど、生産者に技術への興味を持ってもらう取り組みや外部専門家の招聘などを行っている点も評価できる。 ・ 課題の残る複合環境制御導入法人に対しては、改善に向け、引き続き、必要な普及指導を期待したい。 ・ 普及指導の過程では、報告事例のコナジラミや経営的な赤字の発生など、当所目的とは異なる課題が出て来ることも想定されるので、引き続き、臨機応変な対応を期待したい。 <p>【川村千伸】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ きゅうりにおいて大きな成果を得ることができると、意識や意欲の精神面もどんどん良いほうへ向く。 ・ 導入戸数目標をもう少し多くしてもよいのではないかと感じた。例えば、栽培戸数の5%程度など。

【梁川真一】

- ・ データ活用を現場レベルまで落とし込んだ点が評価できる。
- ・ 1年間の振り返りとして、原因の調査を行い、それを次の取組に活かそうとする姿勢が非常に良いと感じた。データで可視化したことで、具体的なフォローが可能になっている点も評価できる。
- ・ 導入支援やデータ活用を横展開している点も大変意義があり、特に、これまで新しい取組に積極的ではなかった生産者が事例として取り上げられていることは大きな成果だと感じた。
- ・ 現状をデータで把握することで次の一手が見え、販路拡大に向けても、自分の商品を客観的に知り、販売につなげていく流れができている点が印象的だった。

3 八幡平農業改良普及センター

(1) 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題名（中課題名）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和8年2月6日 10時00分～16時20分	ア 産地を担う経営体育成による野菜産地力の向上	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
実施場所		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 営農農政部 部長	農業関係団体
キオクシア アイーナ (いわて県民情報交流センター) 研修室 812 ウェブ会議		宮路 広武	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者
		川村 千伸	丸モ盛岡中央青果株式会社 取締役部長	流通関係者
		梁川 真一	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	民間企業等

(2) 課題別の意見

対象課題名	意見・助言
ア 産地を担う経営体育成による野菜産地力の向上	<p>【照井勝也】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題背景、選定理由は良い。 既存の資材、設備を使い低コストに取り組める対策とした点が評価できる。 活動内容が浅かったように感じる。到達目標ももっと高くてもよかったのではないかな。 <p>【山崎勉】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度時点ですでに令和8年度の目標を超えているため、新たな目標をイメージしている点が良かった。 JAの事業をうまく活用し、生産者の生産力向上へ導いている点も評価できる。 <p>【宮路広武】</p> <ul style="list-style-type: none"> トマトでの外気導入式強制換気による暑熱緩和技術の導入については、過去の実績の振り返りから、近年の猛暑への対策技術として迅速な対応、導入への取り組みが行われており評価できる。 普及指導の場面では、当初計画で想定していなかった様々な課題が出て来ることは、十分考えられるため、計画の達成だけでなく、引き続き、出てきた課題に対し、臨機応変な対応を期待したい。 <p>【川村千伸】</p> <ul style="list-style-type: none"> 部会を巻き込んで導入推進を行った点は評価できる。八幡平は少数部会なので全員の導入をお願いしたい。 トマト類の単収は向上しているが微増程度では導入しようとしている生産者は迷うのではないかな。2～3割単収が向上する新たな併用技術が必要だと感じた。 <p>【梁川真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化の進行により、生産者数や出荷額が減少傾向にある中で、農家への配慮を重視し、普段の作業の延長線上で取り組める内容にしている点は大変良いと感じた。こうした負担の少ない取組は、今後他地区においても必要になると考える。 特に、高齢ではあっても経験豊富なベテラン農家の方々を、いかに改善活動へ巻き込んでいくかが重要であり、そのための技術改善支援の在り方が今後の鍵になると感じた。

4 中部農業改良普及センター

(1) 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題名（中課題名）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和8年2月6日 10時00分～16時20分	ア 野菜産地の生産構造の強化	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
実施場所		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 営農農政部 部長	農業関係団体
キオクシア アイーナ (いわて県民情報交流センター) 研修室 812 ウェブ会議		宮路 広武	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者
		川村 千伸	丸モ盛岡中央青果株式会社 取締役部長	流通関係者
		梁川 真一	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	民間企業等

(2) 課題別の意見

対象課題名	意見・助言
ア 野菜産地の生産構造の強化	<p>【照井勝也】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題背景、選定理由は良い。 ・ 活動及び実績内容について細かい部分まで支援している点が評価できる。 ・ ビーマンについては、販売額については過去最高を記録したが、単収については目標に達していないので、この点を達成してほしい。 ・ ミニトマトの単収は増加しているが、目標に達していないので、この点を達成してほしい。 <p>【山崎勉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高温対策は急務なこともあり、JAや部会とうまく連携し対応している点が良い。 <p>【宮路広武】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ビーマンでの暑熱資材の活用やミニトマトでの外気導入や遮熱資材の散布など、近年の酷暑への対策、取り組みが迅速に行われている点は評価できる。 ・ 暑熱の影響により落ち込んだビーマンの単収が継続して増加傾向にあるなど、普及指導の効果も認められるので、目標達成に向け、引き続き、取り組まれることを期待したい。 <p>【川村千伸】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普及活動実績はかなりの成果をあげており高く評価できる。部会全体に波及していくことを期待したい。 ・ 単収が増加しているが目標よりはかなり低い。販売額は過去最高となっているが相場の影響もあるのではないかと考える。 ・ 遮熱資材のドローン散布はりんごの共同防除のような手法で拡大できないか。金銭面が課題であり、市、JAの助成率が増加されることを期待したい。

対象課題名	意見・助言
	<p>【梁川真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主力品目の単収・品質向上、組織的指導体制づくりは評価できる。 ・ 新規生産者（ピーマン 12～17 名）の中で成果が出た、または伸びた経営体の共通点がどこにあるのかは、今後の横展開に向けて非常に重要な視点だと感じた。今後さらに産地としてブラッシュアップする方向性についても、整理していくことを期待したい。 ・ 遮熱資材の効果が1年程度で低減する点は留意すべき課題だが、高温によるトラブルの多さを踏まえると、所得効果が約2倍という費用対効果は評価できる。

5 奥州農業改良普及センター

(1) 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題名（中課題名）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和8年2月6日 10時00分～16時20分	ア 次代を担う野菜産地の育成強化	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
実施場所		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 営農農政部 部長	農業関係団体
キオクシア アイーナ (いわて県民情報交流センター) 研修室 812 ウェブ会議		宮路 広武	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者
		川村 千伸	丸モ盛岡中央青果株式会社 取締役部長	流通関係者
		梁川 真一	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	民間企業等

(2) 課題別の意見

対象課題名	意見・助言
ア 次代を担う野菜産地の育成強化	<p>【照井勝也】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題背景、選定理由は良い。 活動実績で、生産者の自立化が進んだとのことは重要であると思う。 到達目標で若手生産者の出荷数量割合を増加させることとしているが、生産者全体に占める若手生産者の割合、あるいは作付面積全体に占める生産者の割合も分かればよかった。 <p>【山崎勉】</p> <ul style="list-style-type: none"> JA としっかり連携して対応していることが、随所から見て取れる。 資料や写真などの発表素材も JA と情報共有していると感じられる。 <p>【宮路広武】</p> <ul style="list-style-type: none"> ピーマンでの環境モニタリング機器導入経営でのデータ活用等については、生産者の積極的な取り組みが行われている他、尻腐果発生率の低下や収量増などの成果も認められるとともに、更なる技術導入の広がりの可能性があり評価できる。 トマト、きゅうりでの環境モニタリング等によるデータ活用についてもピーマンの取組も参考に、引き続き、普及指導に取り組まれることを期待したい。 <p>【川村千伸】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県産ピーマンの販売面での最大の課題は尻腐果の混入である。実証農家の尻腐果低減の取組成果が産地全体の 1/10 という結果となりすばらしい。 この取組を全県に波及させることを期待したい。

対象課題名	意見・助言
	<p>【梁川真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「水田・園芸・畜産を含めた複合的な地域設計に取り組んでいる点が非常に良いと感じた。取組規模も着実に拡大しており、モデル地域としての形が見え始めていることは大きな成果だと思う。 ・ 担い手不足という現実がある中で、若手生産者の確保・育成に真正面から取り組んでいる点は、とても重要だと感じた。 ・ 特にピーマンの取組については、単なる技術導入ではなく、データを活用しながら生産者自身が考え、改善していく力を高めている点が印象的だった。 ・ データ活用が定着することで、生産者が“自分で判断できる状態”に近づいていることは、産地の持続性を考える上で大きな意味があると思う。

6 一関農業改良普及センター

(1) 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題名（中課題名）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和8年2月6日 10時00分～16時20分	ア 畜産経営体の収益確保	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 営農農政部 部長	農業関係団体
宮路 広武		国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者	
川村 千伸		丸モ盛岡中央青果株式会社 取締役部長	流通関係者	
梁川 真一		一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	民間企業等	
実施場所				
キオクシア アイーナ (いわて県民情報交流センター) 研修室 812 ウェブ会議				

(2) 課題別の意見

対象課題名	意見・助言
ア 畜産経営体の収益確保	<p>【照井勝也】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題背景、選定理由は良い。 ・ 到達目標の達成度が高い点は評価できる。 ・ 立毛間は種による大豆と小麦のローテーションは有効だと感じた。 ・ 今回の発表した取組はどんどん地域に広げてほしい。 <p>【山崎勉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分かりやすい説明であった。 ・ 一方で、数値の捉え方を第三者の人にもわかるような説明内容にまで落とし込んでほしい。 <p>【宮路広武】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ドローンを用いた立毛間播種による小麦サイレージ生産や稲 WCS 専用品種「つきはやか」の省力栽培体系の導入など、飼料生産と省力栽培技術の導入に同時に取り組み、飼料生産面積や取り組み農家数も増加している点は評価できる。 ・ 飼料生産の拡大には、耕種経営の取り組みとともに、供給先となる畜産経営との連携が必要なので、双方のニーズの汲み取りや課題解決への対応など、引き続き、持続的な構築連携システムの構築に向け、取り組まれることを期待したい。 <p>【川村千伸】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目の付け所がよく、成果もあがっており、評価できる。 ・ 稲WCS栽培については、主食用米の価格に左右されず継続できる体制がもとめられる。 <p>【梁川真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自給飼料の増産・確保に向けて、実証とデータに基づき着実に取組面積を拡大している点が非常に良いと感じた。ドローン活用など省力化にも取り組み、現実的なモデルづくりが進んでいることが印象的だった。

対象課題名	意見・助言
	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼン資料の成果が何を基準にしているのか、比較対象が見えないと分からない。 ・ 一関地区の取組は、自給飼料の確保という地域課題に対し、技術導入だけでなく、実証・データ活用・面積拡大・販売展開までを一体で進めている点に大きな意義を感じた。 ・ 「つきはやか」の導入やドローンによる省力化など、現場に合った工夫が積み重ねられ、利用戸数や取組面積が拡大していることは、確実に前進している証だと思う。 ・ 今後さらに地域内外への広がりが期待できる取組だと感じた。

7 大船渡農業改良普及センター

(1) 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題名（中課題名）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和8年2月6日 10時00分～16時20分	ア 施設野菜モデル経営体の育成	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
実施場所		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 営農農政部 部長	農業関係団体
キオクシア アイーナ (いわて県民情報交流センター) 研修室 812 ウェブ会議		宮路 広武	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者
		川村 千伸	丸モ盛岡中央青果株式会社 取締役部長	流通関係者
		梁川 真一	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	民間企業等

(2) 課題別の意見

対象課題名	意見・助言
ア 施設野菜モデル経営体の育成	<p>【照井勝也】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題背景、選定理由は良い。 ・ 経営（キャッシュフロー等）についても指導していたのは評価できる。 <p>【山崎勉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培マニュアル作成まで手掛けていることは評価できる。 <p>【宮路広武】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ミニトマト生産に取り組む法人Aでは、概ね順調にモニタリングデータの活用が行われ、収量向上等の成果も認められる点は評価できる。 ・ 環境制御以外の課題もあげられていることから、必要な普及指導が行われることを期待したい。 ・ ハウスビーマンについては、「温湿度管理による光合成促進」から「日射時間・生育量に基づく適切なかん水による尻腐果対策」に狙いの変更を検討するとあり、これは生産者の課題に対し必要な対策に変更することから望ましいが、同時に、費用対効果など、当初目標からの変更となった要因についても整理しておくことで、今後の普及指導活動に有益な情報が得られると考える。 <p>【川村千伸】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普及活動で何とかしようという努力は評価できるが、雇用型大規模経営では代表者のセンスがものをいう。残念ながら現状は資質不足と感じる。 ・ このまま支援を継続していくのか、経営体の変更を考えるのか悩ましい問題だと思う。 <p>【梁川真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境モニタリングやCO₂施用などの技術導入を、単なる設備で終わらず、増収につなげている点が非常に良いと感じた。あわせて、人材育成や作業の標準化に取り組んでいることも印象的だった。 ・ 大船渡地区の取組は、施設野菜モデル経営体の育成を軸に、環境制御技術の活用と人材育成を両輪で進めている点に大きな意義を感じた。 ・ 経営体ごとの差が見えてきたことも、次の改善につながる材料であり、技術の定着と人の育成が進めば、さらに安定したモデル経営体の確立が進んでいくことを期待したい。

8 宮古農業改良普及センター

(1) 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題名（中課題名）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和8年2月6日 10時00分～16時20分	ア 野菜生産体制の強化	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
実施場所		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 営農農政部 部長	農業関係団体
キオクシア アイーナ (いわて県民情報交流センター) 研修室 812 ウェブ会議		宮路 広武	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者
		川村 千伸	丸モ盛岡中央青果株式会社 取締役部長	流通関係者
		梁川 真一	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	民間企業等

(2) 課題別の意見

対象課題名	意見・助言
ア 野菜生産体制の強化	<p>【照井勝也】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題背景、選定理由は良い。 ・ 活動体制、内容、実績が浅い。環境制御技術の効果が得られなかった要因をもっと分析してほしい。 <p>【山崎勉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境モニタリングデータ活用に興味を持つ若手生産者に、他のエリアの成功事例なども参考にした上で、成功体験をぜひ経験させてほしい。 <p>【宮路広武】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ピーマンにおいては、環境制御技術の普及には至っていないが、若手生産者が多きゅうりにターゲットの変更、地域の実態を踏まえ、データ活用等への順応性の高い若手グループへの指導に取り組むなど臨機応変な対応を行っている点は評価できる。 ・ 環境制御以外の幾つかの課題も示されているので、普及指導を通して改善されることを期待したい。 <p>【川村千伸】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生産者間の仲間づくり、パート発掘の取組は評価できる。これをきっかけに作付け拡大になれば良い。 ・ 生産者間の競争意識を発生させる普及活動を期待したい。 <p>【梁川真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中核経営体の育成を軸に、ブロッコリー・ピーマン・きゅうりの安定生産と単収向上に継続的に取り組んでいる点が非常に良いと感じた。 ・ 若手グループ活動や新規就農者支援にも力を入れていることが印象的だった。 ・ 基幹品目の安定生産と単収向上に地道に取り組んでいる点に大きな意義を感じた。 ・ 若手グループ活動や新規就農者への重点支援など、次世代を意識した取組が行われていることは、産地の持続性を考えるうえで非常に重要だと感じた。 ・ 数値や実証をもとに改善を重ねている点からも、今後さらに安定した産地形成につながっていくことを期待したい。

9 久慈農業改良普及センター

(1) 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題名（中課題名）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和8年2月6日 10時00分～16時20分	ア ほうれんそうを核とした園芸産地の育成	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
実施場所		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 営農農政部 部長	農業関係団体
キオクシア アイーナ (いわて県民情報交流センター) 研修室 812 ウェブ会議		宮路 広武	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者
		川村 千伸	丸モ盛岡中央青果株式会社 取締役部長	流通関係者
		梁川 真一	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	民間企業等

(2) 課題別の意見

対象課題名	意見・助言
ア ほうれんそうを核とした園芸産地の育成	<p>【照井勝也】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題背景と選定理由は良い。 ・ ほうれんそうの取組については結果がでなかったのが残念だった。 <p>【山崎勉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規栽培品目の作付面積は目標を大きく上回っているが、ほうれんそうの出荷量（1経営体あたり）が目標を大きく下回っている原因は、本当に高齢化と作業労賃上昇による経営規模縮小なのか疑問を感じた。しっかりと分析した結果がそうなのであれば、実態に合った目標修正が必要だと考える。 <p>【宮路広武】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規園芸品目の導入促進については、ブロッコリーやピーマンについて、病害対策など必要な普及指導を行い、収量や栽培面積が増加している点は評価できる。 ・ ほうれんそうの生産性向上については、高温障害など、近年の猛暑に伴い、特に問題となってきた課題もあるので、引き続き、有効な対策が実施されることを期待したい。 <p>【川村千伸】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本当に推進品目がほうれんそうでよいのか、再考が必要ではないか。多少単収が上がってもこれだけ暑いと厳しい。過去の栄光にとらわれず品目転換を決断する時期かと思う。 <p>【梁川真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ほうれんそうの生産性向上に向けて、高温対策や病虫害対策を具体的に実証し、巡回など丁寧なフォローを行っている点が非常に良いと感じた。あわせて、新規園芸品目の導入が着実に進んでいることも印象的だった。 ・ 気象条件や生産者減少という厳しい環境の中でも、巡回や生産者への重点支援など、きめ細かな対応を続けていることは評価できる。 ・ ブロッコリーやピーマンといった新規園芸品目の導入が拡大し、販売額の伸長や生産者育成につながっている点は、産地の将来を見据えた前向きな取組だと感じた。 ・ 課題を明確にしながら改善を重ねている取組から、今後さらに安定した産地形成につながっていくことを期待したい。

10 二戸農業改良普及センター

(1) 意見交換の実施状況

実施日時	対象課題名（中課題名）	外部有識者		
		氏名	所属及び職名	区分
令和8年2月6日 10時00分～16時20分	ア 革新技術等の普及拡大による野菜の生産性向上	照井 勝也	公益社団法人 岩手県農業法人協会 会長 (岩手県農業農村指導士、西部開発農産 代表取締役社長)	先進的な 農業者
実施場所		山崎 勉	岩手県農業協同組合中央会 営農農政部 部長	農業関係団体
キオクシア アイーナ (いわて県民情報交流センター) 研修室 812 ウェブ会議		宮路 広武	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 緩傾斜畑作研究領域 生産力増強グループ グループ長	学識経験者
		川村 千伸	丸モ盛岡中央青果株式会社 取締役部長	流通関係者
		梁川 真一	一関まちづくり株式会社 代表取締役 (新鮮館おおまち 店長)	民間企業等

(2) 課題別の意見

対象課題名	意見・助言
ア 革新技術等の普及拡大による野菜の生産性向上	<p>【照井勝也】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題背景、選定理由は良い。特に、新規生産者の確保数は目標を大きく上回っており、評価できる。 適地適作が基本なので、良い取組だと思った。 生産者急増による対応ができていないので、今後、しっかり対策に取り組むことを期待したい。 <p>【山崎勉】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「新規生産者」は目標を大きく上回っているが、「目標達成をした新規生産者の割合」は目標を大きく下回っている。これは、少し危険な数値と感じた。増えた新規生産者が離農することの無いように、対応方法を工夫しなければならないと考える。 <p>【宮路広武】</p> <ul style="list-style-type: none"> きゅうりの環境制御技術導入経営では、環境制御以外の課題にも適切に対応し、収量向上等が達成されている点は評価できる。 果菜類の生産拡大については、園芸振興サポートセンターの活動などにより、特にピーマンの新規生産者が増加している点は評価できる。 ピーマンについては、生産者が急速に増加し、生産者間の品質格差も確認されるとのことなので、必要な普及指導を通して、格差が改善されることを期待したい。 <p>【川村千伸】</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果があがっていることは評価できる。 ピーマンは、尻腐れ多発により市場で要注意品目になっているので、早急な改善をお願いしたい。 <p>【梁川真一】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境制御技術の導入支援と果菜類の生産拡大を同時に進め、新規生産者の確保（23名）につなげている点が非常に良いと感じた。特に、実証を伴う技術支援が具体的で印象的だった。 ピーマンを中心に23名の新規生産者を確保していることは、産地としての将来性を示す成果だと思う。 高温や品質差などの課題も明確に整理されており、課題を見える化したうえで次の改善につなげようとしている姿勢は評価できる。 今後、規模拡大する生産者への重点支援が進めば、より安定した産地形成につながっていくことを期待したい。

普及指導計画の策定及び普及指導活動の実施と評価に関する要領

第1 趣 旨

県では、協同農業普及事業の実施に関する方針（以下「実施方針」という。）を定め、農業者が将来展望をもって農業経営に取り組むことができるよう、農業者の所得向上と地域課題の迅速な解決を目指し、効果的な普及指導活動を展開することとしている。

この要領は、普及指導活動を効果的かつ効率的に実施するため、普及指導計画の策定、これに基づいたスペシャリスト機能・コーディネート機能・総合的な企画運営能力を発揮した普及指導活動の実施と記録、幅広い視点からの客観的な評価の実施及び評価に基づく活動の見直しを一連のサイクルとして行うことについて、必要な事項を定めるものである。

第2 普及指導計画の策定

- 1 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、「いわて県民計画」の目標実現に向け、計画的かつ継続的な普及指導活動を行うため、4カ年を計画期間とする普及指導計画を策定する。
- 2 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導計画の策定に資するため、実施方針に掲げる普及指導活動の課題や「いわて県民計画」の各プランに則し、計画活動により解決する基本的な課題（以下「基本課題」という。）を設定する。
- 3 基本課題のうち、重要かつ広域的な課題を県重点課題として農業普及技術課が選定し、その課題に対応した普及指導計画を策定する。
また、基本課題のうち、地域において重要な課題を地域重点課題として農業改良普及センターが選定し、その課題に対応した普及指導計画を策定する。
- 4 農業普及技術課が策定する普及指導計画は「県重点プロジェクト計画」、農業改良普及センターが策定する普及指導計画は「地域重点課題普及指導計画」と呼称する。
- 5 普及指導計画は、普及指導方針及び課題別計画の構成とし、地域農業・農村の現状及び農政推進上の課題、目指す姿や目標を明らかにして策定する。

なお、普及指導計画等の内容や課題の計画期間は、課題解決の進捗状況等、必要に応じて変更することができるものとする。

- (1) 県重点プロジェクト計画は様式第1号により作成し、地域重点課題普及指導計画は様式第2号により作成する。
- (2) 普及指導方針は、様式第1-1号、様式第2-1号により作成し、様式に掲げる事項を定める。
- (3) 課題別計画は、様式第1-2号、様式第2-2号により作成し、様式に掲げる事項を定める。また、課題別計画ごとに工程表を作成する。

- 6 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、県重点課題又は地域重点課題以外の基本課題について、活動計画（以下「基本課題に係る活動計画」という。）を策定する。

なお、基本課題に係る活動計画は、参考様式によるほか、達成目標や達成手段・方法を明記した任意様式により策定するものとする。
- 7 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、高度化かつ多様化する農業者等のニーズに対応し、より一層効果的かつ効率的な普及指導活動の展開を図るため、普及指導計画の策定にあたって、次の内容に留意する。
 - (1) 消費者や農業者のニーズの視点をもって活動するため、農業普及員が巡回指導や各種の調査等を通じて収集整理した情報をもとに管内の農業及び農村の現状を踏まえ、重点的に取り組むべき課題と支援対象者を絞り込む。
 - (2) 課題解決に向けて取り組む項目や到達目標、及び支援対象者への具体的な支援内容や目標等について、あらかじめ支援対象者と十分に協議し共有する。
 - (3) 農業農村指導士、普及事業パートナー、市町村や農協等の関係機関・団体、民間、県機関等と十分な協議・検討を行って課題と目標を共有し、それぞれの役割分担と連携の進め方（地域協働の姿）を明確にする。
 - (4) 県重点プロジェクト計画が広域的な課題解決に向け効果的な活動となるよう、農業普及技術課と農業改良普及センターの役割分担を明確にする。
- 8 農業普及技術課は、当該年度の県重点プロジェクト計画及び基本課題に係る活動計画を4月上旬までに農業改良普及センター、県庁農政担当課及び農業研究センターへ通知する。

なお、県重点プロジェクト計画（課題別計画：様式第1-2号）を変更しようとする場合は、事前に農業改良普及センター等から意見を聞くものとする。
- 9 農業改良普及センターは、当該年度の地域重点課題普及指導計画及び基本課題に係る活動計画を4月中旬までに農業普及技術課へ報告する。なお、地域重点課題普及指導計画（課題別計画：様式第2-2号）を変更しようとする場合は、事前に農業普及技術課の助言を受ける。

第3 普及指導活動の実施等

- 1 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導計画及び基本課題に係る活動計画に基づき、効果的かつ効率的な普及指導活動を実施する。なお、県重点プロジェクト計画については、明確化された役割分担に基づき農業普及技術課と農業改良普及センターが一体となって活動する。
- 2 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、課題別単年度実績（様式第1-3号、様式第2-3号）により普及指導計画の進捗状況を把握しながら、当該年度の普及指導活動を計画的かつ効果的に実施するよう努める。また、基本課題に係る活動計画についても、

計画的かつ効果的に実施するよう参考様式等により進捗管理する。

- 3 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、支援対象者等に対する普及指導活動の内容を記録・蓄積することにより活動経過を共有し、継続的な普及指導活動を実施する。
- 4 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導活動の実施状況や成果について、毎年度、活動実績書等に取りまとめ、県のホームページ等を通じて積極的に外部に公表するとともに、地域の農業者等に対して広く周知する。

第4 普及指導活動の評価

- 1 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導活動の結果を的確に把握して、その後の効果的な活動に反映させる。
- 2 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、普及指導計画に定めた課題の進捗状況及び活動記録を通じて明らかになった対象の変化等を整理・分析し、毎年度、課題別に内部評価を実施する。
 - (1) 課題別評価は、課題別単年度実績（様式第1-3号、様式第2-3号）により、計画策定過程、活動実施過程、活動の結果を総合的に評価し、毎年度末までに取りまとめる。

また、計画期間の最終年には、課題別実績（様式第1-4号、様式第2-4号）により、計画期間における実績を総括して評価し、当該年度末までに取りまとめる。
 - (2) 農業改良普及センターは、内部評価結果として課題別単年度実績（様式第2-3号）を、毎年度末までに農業普及技術課へ報告する。また、計画期間の最終年には、課題別実績（様式第2-4号）を当該年度末までに農業普及技術課へ報告する。
- 3 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、幅広い視点から客観的な検討を行い、一層効果的かつ効率的な普及指導活動を展開するため、普及指導計画について、毎年度、外部有識者との意見交換を実施するものとする。
 - (1) 農業普及技術課は、意見交換を統轄し、外部有識者との意見交換会（以下「意見交換会」という。）の開催と、必要な予算措置を講ずる。
 - (2) 外部有識者は、地域の先進的な農業者（農業農村指導士等）や農業関係団体、消費者、学識経験者、報道機関、民間企業等から毎年度、一部に偏りが出ないように5名以内とする。
 - (3) 意見交換会は、内部評価終了後の概ね2月中下旬に開催する。
 - (4) 意見交換会では、毎年度数課題を選定し、計画、活動方法及び成果、活動体制について意見、助言等を行う。
 - (5) 農業普及技術課は、外部有識者からの意見・助言等を当該年度末までに外部有識者との意見交換会実施報告書（様式第1-5号、様式第2-5号）に取りまとめ、その概要を県のホームページ等を通じて外部へ公表する。

- 4 農業普及技術課及び農業改良普及センターは、内部評価及び外部有識者との意見交換の過程を経て取りまとめた活動の成果と課題及び意見交換会の意見・助言等を踏まえて、課題解決の方策等について十分に検討を行い、次年度以降の普及指導計画に可能な限り反映させ、もって普及指導活動及びその体制の改善を行う。

第5 その他

この要領に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附則

この要領は、平成18年10月6日から施行する。

附則

この要領は、平成20年4月1日から施行する。

附則

この要領は、平成23年5月2日から施行する。

附則

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

附則

この要領は、平成27年12月3日から施行する。

附則

この要領は、平成28年10月31日から施行する。

附則

この要領は、平成31年4月1日から施行する。

附則

この要領は、令和3年1月27日から施行する。

附則

この要領は、令和4年9月29日から施行する。

附則

この要領は、令和6年2月6日から施行する。